令和5年7月5日

保護者会資料

荒川区立第三中学校長　小 柴 憲 一

1　社会を構成する一員としての自覚を高める＜学校経営方針の柱＞

(1)教科指導の中からの例

〇一斉授業から離れて小グループを作った学習の中で、互いが考えた意見や感想などを出し合い、自分の考えを修正したり、もしくはそのグループとしての結論を導いたりする学習。

⇒これからは多国籍の人々と協働で、解決困難な課題を解決していく時代（生活経験や育ってきた環境や信仰している宗教によって、受け止め方や考える視点には思いもかけないものがある時代になっています。）

(2)生徒会活動の中からの例

〇各委員会・実行委員会が委員としての立場から生徒会の新たな課題を発見し、解決・改善するために全校・学年・学級にプレゼンしたり、取組み活動を行ったりして、常に修正を加えながら、今まで以上の自治組織に発展させてしていく活動。

⇒これからは、地球規模の課題に対して各国で歩調をそろえて修正を加えながら取り組んでいったり、少子化の時代に向けて合意形成を図って試行錯誤しながら社会・経済・福祉活動を行っていったりする時代（AIは蓄積された事実情報の中から最適解を導き出すが、それが多くの人に受け入れられる正解とは言えません。）

(3)ボランティア活動

〇活性化された地域行事に積極的に参加し、その行事の運営者の一員となることにより、地域という社会の一員となった自覚を感じる活動

⇒社会に出たら異年齢の集団の中で、自分の役割を見出し、その役割を果たすことにより組織や集団の貢献に寄与していくことになります。

これらの学習や活動により、18歳になったら成人になる子どもたちに、社会を構成する一員にはどんな立場の人たちが必要なのか、一員として何をする必要があるのかなどを体験的に学んで内面的成長を促していくことができます。

2　自治活動が活発になる

これらの学習や活動により、自分たちの生活を自分たちでよりよいものにしていこうとする習慣が身に付き、教員の目が行き届かないところでも自治の安定が図られていきます。

3　学力、ことさら測ることのできる学力が向上する

このような自治的な環境で学習をしていくことにより、発言・傾聴・意見交換・学び合い・自己修正を図っていくことができ、学力調査などの測ることのできる学力も向上していきます。